

多賀城跡第101次発掘調査現地説明会の開催

宮城県多賀城跡調査研究所では、奈良・平安時代の陸奥国府である特別史跡多賀城跡の発掘調査を行っています。

今年度は第101次発掘調査として、多賀城跡北西隅の新西久保地区で外郭西辺の調査を実施しています。このたび、その成果がまとまりましたので、報道機関の皆様を対象に現地公開を開催します。

当日は、所員が現地で発掘調査の成果を説明しますので、ぜひ取材してくださるようお願いいたします。

記

1 日 時 報道機関公開 令和7年11月13日(木曜日) (雨天決行)

午後1時30分から午後3時まで

一 般 公 開 令和7年11月15日(土曜日) (小雨決行)

午前10時30分から正午まで

2 会 場 多賀城市市川字新西久保地内 多賀城跡第101次発掘調査現場

JR東北本線 国府多賀城駅より徒歩25分(別添地図参照)

3 説 明 者 宮城県多賀城跡調査研究所 村上裕次 廣谷和也

4 調査成果 当日、現場で調査成果をまとめた資料を配布いたしますが、概要は別添資料を参照ください。

5 その他 発掘調査現場は低地で、足場が悪い状態ですので、長靴等の汚れても構わない靴で御来跡ください。

多賀城跡第 101 次調査の成果について

調査の目的

特別史跡多賀城跡は奈良・平安時代の陸奥国府跡です（724 年～11 世紀前半頃）。宮城県多賀城跡調査研究所では、昭和 44 年以来、5 カ年計画による発掘調査を計画的に実施し、実態の解明を進めています。今年度は第 12 次 5 カ年計画の 2 年目にあたり、多賀城の威容を示し、防御においても重要であった外周りを囲む区画施設の解明を目的として、新西久保地区で西辺の調査を実施しています。

調査成果

低地部の西辺区画施設が材木堀、大溝であることを確認しました。

- ・材木堀と大溝を南北約 10m 発見しました。材木堀については西辺では過去の成果と合わせて約 250m 以上延びることが分かりました。材木堀はほぼ同位置で 2 回作り直されており、これまでの調査成果から、いずれも平安時代のものと考えられます。
- ・材木堀の材は径約 25 cm の丸太材などで、40 本以上認められ、最も残りの良いものは地中に約 70 cm 残存しています。
- ・大溝は材木堀と並行し、幅約 3 m、深さ約 1.2m あります。
- ・このほか、区画施設をつくるために、低湿地に大規模な盛土をして地盤を安定させたり、石や木杭で大溝の護岸を行ったり、丘陵部に向けてより高く土を盛るために材木による土留めを行うなど、様々な工夫がみられます。



調査区の様子（南から）

調査区中央付近で、南北方向にのびる平安時代（約 1,100～1,200 年前）の材木堀や大溝を発見しました。



多賀城の西辺の材木堀（南東から）

材木堀は、地面を溝状に掘り、その中に材木を一系列に据え、土を埋め戻してそれらを固定したものです。地下部分の材木が良く残っています。



0 200m

多賀城跡第101次調査 現地説明会場